

パルシステム生産者・消費者協議会

2017年度 上期関東・中部ブロック会議 開催報告

パルシステム生産者・消費者協議会
事務局

- ・2017年4月20日～21日に山梨県にて生消協の関東・中部ブロック会議が開催され103名が出席しました。
- ・生産者は32産地・64名が集い、生消協からは大津代表幹事、木村消費者幹事（パルシステム東京）、小山消費者幹事（パルシステム埼玉）、小田消費者幹事（パルシステム千葉）のほか、今年度の活動方針でもある他ブロック役員の交流・情報収集のため、東北・北海道ブロックから鈴木副ブロック長、関西・以西ブロックからは松崎監事が参加しました。
- ・パルシステムグループからは、パルシステム山梨 白川理事長、志村専務理事、梅原常任理事ほか7名、ジーピーエス野村専務ほか2名、パル・ミート大泉常務ほか1名、パルシステム連合会 渋澤常務執行役員ほか4名が参加しました。
- ・開会挨拶を大津代表幹事、パルシステム山梨 白川理事長が行いました。関東・中部ブロック会議は実行委員会を立ち上げて準備を進めてきたため、携わった生消協の山梨県内産地の生産者紹介を行いました。また、今年度は役員改選が行われ、ブロック役員が変更となったため、自己紹介を行いました。
- ・その後、生消協、パルシステム連合会、ジーピーエス、パル・ミートの方針、実績、取り組み等の説明を各組織の役員より行い、消費者幹事報告、パルシステム山梨の取り組み報告の後に、2016年度の生消協活動方針に掲げ作成を行った産地ビジョン報告を野菜部門：フォレストファーム、果樹部門：やはた会、鶏卵部門：峡南鶏友会が行いました。
- ・今回はブロック会議参加申し込み時に産地の課題を聞き出すアンケートを設定しており、その課題解決に向けたグループディスカッションを行いました。約1時間という短い時間でしたが、参加者からは、「地域性や人口規模は異なるが、それぞれ類似した課題に直面していることがわかった。生産だけでなく、産地間でもっと連携して取り組めることがあると感じた。」「会員生協の報告を聞いて、小さな産地でも生協と連携できることがわかった。もっと密な交流を目指したい。」「ブロック会議という場に出席したことで、他の産地の若者と顔を合わせることができた。生產品目が異なると交流機会がないので、今後も積極的に参加したい。」という声が出されました。
- ・懇親会ではパルシステム山梨の組合員・職員を中心に結成された「劇団パルパル」によるバランスのよい食事の啓発に関する公演、「お米をもっと食べよう」とPRするダンスが披露され、生産者も登壇してひと時を過ごしました。
- ・2日目はブロック会議のまとめを行い、2グループに別れてグットファームとやはた会の視察を行いました。
- ・関東・中部ブロックでは各県持ち回りで会議を開催しており、会員生協と共に実行委員会を組織して準備を進めてきました。本会議において、次年度の開催は神奈川県に決定しました。



・会場の様子



・新ブロック役員の紹介



・パルシステム山梨 劇団パルパルによる公演



・「お米をもっと食べよう！」と PR するダンス



・圃場視察の様子（やはた会）